

第1学年 社会科学習指導案

1年3組 男子21名 女子19名 計40名

指導者 清水 暁子

【授業】13:10～14:00 会場 1年3組(2階)

【協議会】14:15～15:25 会場 1年3組(2階)

- 1 単元名 古代国家の成立
—ギリシャ・アテネの民主政—

2 単元について

(1) 単元設定の趣旨

①学習指導要領における位置付け

本単元は、平成29年告示の中学校学習指導要領の歴史的分野の大項目「B 近世までの日本とアジア」、中項目(1)「古代までの日本」にあたる。ア(ア)「世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたこと」を理解したり、イ(イ)「古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして」、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する力を身に付けたりすることをねらいとする。

②社会の要請から

平成29年告示の中学校学習指導要領解説社会編では、歴史的分野における改訂の要点として、「ウ 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実」や「エ 主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実」が挙げられた。本単元で取り扱う古代という時代において、ギリシャの都市国家アテネでは民主政という政治のしくみが確立した。歴史学的にも、古代ギリシャ・アテネで民主政が発展したことは、現代の「民主主義」の考え方につながるものとしてしばしば重視されることがある。例えば、現代の日本でも「民主主義」に基づく政治のしくみが整えられているし、生徒が日常生活の中で行う学級会や生徒会での話し合いのしくみもまた「民主主義」の考え方に基づいている。日本で「民主主義」を求める風潮が社会全体に広まりを見せたのは、近代以降では米騒動や大正デモクラシーといった歴史的事象が挙げられるが、これらは第3学年次に学習する内容である。しかし、生徒が上記に挙げた歴史的事象の意義をより深く捉えるためには、「民主主義」とはどのようなものなのかを理解していることが前提であると考えられる。第1学年次で古代ギリシャ・アテネの民主政を取り上げ、「民主主義」の価値や重要性とともに課題や欠点についても目を向けさせることで、生徒がこれから学習していく我が国の歴史をより深く理解したり、現代を生きる主権者としての在り方を考えさせたりすることにつながるのではないかと考えた。

③歴史学研究における位置付け

古代ギリシャ・アテネの民主政は現代の「民主主義」の基になったものではあるが、アテネの民主政と、現代の「民主主義」に基づく民主政治のしくみは異なる。アテネでは、国政に関する全ての事柄について最終的な決定の権限をもつのは市民で構成された民会であった。参政権をもつのは両親がアテネ人で18歳以上の成人男性のみであり、女性や異民族、奴隷には参政権がなかった。また、現代のように選挙によって代表者を決める代議制ではなく、参政権をもつ市民全員が直接政治に参加する直接民主制のしくみを採っていた。民主政が完成する前のアテネでは、生まれがよく財産のある少数の貴族が政治を支配する体制であったが、ペルシア戦争で兵士としてギリシャの勝利に貢献した平民の活躍が認められ、民主政の完成に至ったと言われている。しかし、その古代ギリシャで民主政の負の側面を指摘していたのが哲学者アリストテレスである。彼は著書『政治学』の

中で、政治には“一人の支配”“少数の支配”“多数の支配”の三つの形態とそれぞれが墮落した計六つの形態があることを述べている。そして、“多数の支配”が墮落した形態が、ギリシャ語で“demokratia”（英語では democracy）であり、日本語に訳されるところの「民主主義」なのである。二千数百年前の世界で、現代の「民主主義」の基となった政治のしくみが生まれ、さらにそのしくみの負の側面を指摘していた意見があったことを題材に、課題を追究する単元構成とした。

（２）生徒の実態

本実践においては、資料を読み取ったり、読み取ったことをもとに自分の考えを説明したりする活動を行う。本単元は、中学校社会科歴史的分野において最初の単元であり、生徒は上記の活動には不慣れであることが考えられる。文字だけでなく図を用いるなどして資料の読み取りに取りかかりやすくしたり、説得力のある主張を行うことができるようワークシートを工夫したりした。また、小学校での学びから、社会科という教科の特性上、時には絶対的な答えが存在しないことや答えが存在しないことに社会科の面白さがあることを理解している生徒もいる。学習課題に対して考えを主張する際は、根拠を大事にしながらか多様な意見が出るよう促したい。

（３）指導の構え

本校の研究主題である「主体性の高まりを目指す課題学習」と関連し、生徒が進んで追究したくなるような学習課題を設定した。歴史的分野はすでに起きてしまった過去の事象を取り扱うため、現代を生きる生徒にとって、過去の事象と現代の生活とのつながりを実感することが難しい場合がある。そこで、2（１）でも述べたように、現代の政治にも関係する「民主主義」とその基となった古代ギリシャ・アテネの民主政に関する課題を追究する過程で、歴史的な見方・考え方を働かせながら、「民主主義」の優れている点や課題に迫ることができる展開とし、第3学年次における歴史的分野や公民的分野での学習につながるようにしたい。

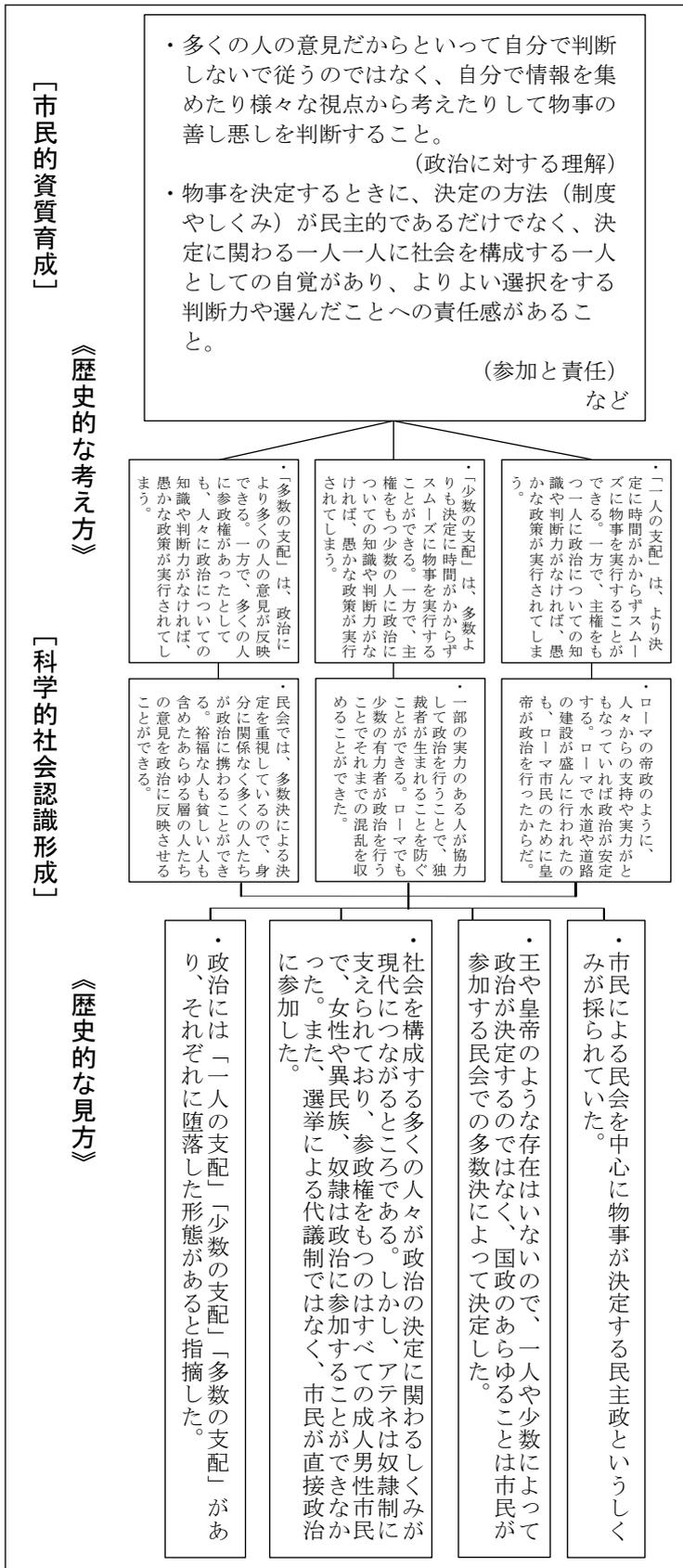
本実践においては、学習課題を『古代ギリシャやローマ市民にとって、最も理想的な政治のしくみといえるのはどれだろうか。』とした。現代で「民主主義」と聞くと、独裁政治などと比較して漠然とよいイメージを抱いている生徒も多いだろう。「民主主義」の基となった民主政についても、前時までの学習では同じようによりよいイメージで捉えている生徒も多いのではないかと考える。しかし、上記の学習課題を提示し追究することを通して、他のさまざまな政治のしくみとともに、民主政に対しても批判的に考察する機会が得られるようにした。

そして、古代の哲学者アリストテレスが指摘していた負の側面をもつ民主政、それを語源とした「民主主義」に基づく政治を、それでもなお取り入れている現代において、よりよい社会を実現するために、社会を構成する市民として、私たちが気を付けなければならないことや大切にしなければならないことは何かを問い、社会科の本質である科学的な社会認識形成を通して育成すべき市民的資質の育成に迫りたい。

3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

古代ギリシャ・アテネの民主政の発展は現代の「民主主義」につながるものとして歴史的に重視されることがあるが、その古代ギリシャですでに民主政の負の側面を指摘した意見があったことを題材に、歴史的な見方・考え方を働かせて、民主政の性格や現代の民主政治との相違に目を向けさせるとともに、主権者の育成という観点から「民主主義」の優れている点や課題に迫ることで、社会科の本質であるよりよい社会を実現するために我々市民に求められている資質や能力について多面的・多角的に考察し、深い学びを実現することができる。

本単元で「深い学び」が実現している状態を、次の図に示した。



4 単元の目標

- 世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解することができる。(知識・技能)
- 古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。(思考・判断・表現)
- ◎ 古代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究して古代の特色を捉えようとしている。よりよい社会の実現を視野に、古代の歴史的事象から現代社会とのつながりを見つけ、現在や将来の生活に生かそうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

5 全体計画(全11時間)

※本時に関わる部分を特に詳細に記した

- 第1次 年代を表すにはどのような方法があるだろうか。 1時間
- 第2次 「旧石器時代」とはどのような時代だったのだろうか。 1時間
- 第3次 古代文明にはどのような特徴があるのだろうか。 3時間
 - ・ なぜ、4つの古代文明は温帯ではなく、乾燥帯で発展したのだろうか。
- 第4次 古代の中国ではどのように広大な国土が統一されていったのだろうか。 1時間
- 第5次 なぜ、宗教は生まれ、今もなお人々の心や生活に根付いているのだろうか。 . . . 1時間
- 第6次 古代のギリシャやローマではどのような政治が行われたのだろうか。 4時間
 - ・ 古代ギリシャ・アテネではどのような政治が行われたのだろうか。
 - ・ 古代ローマではどのような政治が行われたのだろうか。

【獲得される知識・概念】

- ・ 市民による民会を中心に物事が決定する民主政というしくみが採られていた。
- ・ 王や皇帝のような存在はいないので、一人や少数によって政治が決定するのではなく、国政のあらゆることは市民が参加する民会での多数決によって決定した。
- ・ 社会を構成する多くの人々が政治の決定に関わるしくみが現代につながる場所である。しかし、アテネは奴隷制に支えられており、参政権をもつのはすべての成人男性市民で、女性や異民族、奴隷は政治に参加することができなかった。また、選挙による代議制ではなく、市民が直接政治に参加した。
- ・ 古代ローマでは貴族が政治を支配する体制から、法律上、貴族と平民の政治の権利が平等となり、共和政が生まれた。さらに、他国との戦争が続く中で、強い軍事力と指導力を持ち、市民からの支持を得た皇帝が政治を支配する帝政に移り変わった。
- ・ ギリシャの民主政もローマの共和政も、政治を多くの市民で共有するしくみであるという点では同じである。民主政では多くの市民の中でも多数を占める貧しい人々が政治に参加する点が、共和政は貴族と平民のものとの権利などは保持したままに公共のために政治を行うという点が強調される。
- ・ **古代ギリシャやローマ市民にとって、最も理想的な政治のしくみといえるのはどれだろうか。(本時)**

【獲得される知識・概念】

- ・ 「一人の支配」は、より決定に時間がかからずスムーズに物事を実行することができる。一方で、主権をもつ一人に政治についての知識や判断力がなければ、愚かな政策が実行されてしまう。
- ・ 「少数の支配」は、多数よりも決定に時間がかからずスムーズに物事を実行することができる。一方で、主権をもつ少数の人に政治についての知識や判断力がなければ、愚かな政策が実行されてしまう。
- ・ 「多数の支配」は、政治により多くの人の意見が反映できる。一方で、多くの人に参政権があったとしても、人々に政治についての知識や判断力がなければ、愚かな政策が実行されてしまう。

「ギリシャ・アテネの民主政」を通した課題

「民主主義」の考え方が取り入れられている現代において、よりよい社会を実現するために、社会を構成する市民として、私たちが気を付けなければならないことや大切にしなければならないことは何だろうか。

過程	教師による発問・指示 (学習課題)	期待される生徒の反応や活動 (獲得される知識・概念)
【第1時】 の だ ら う か。 古 代 ギ リ シ ャ ・ ア テ ネ で は ど の よ う な 政 治 が 行 わ れ た	<ol style="list-style-type: none"> 1. 写真はこの国だろうか。 2. 写真の場所は何をする場所だろうか。 3. 古代ギリシャ・アテネではどのような政治が行われたのだろうか。 4. 民主主義とは何だろうか。 5. 現代の日本や私たちの身の回りに「民主主義」の考え方に基づくしくみはあるだろうか。 6. 民主政の現代につながるどころと、現代の「民主主義」に基づく政治とは異なるどころは何だろうか。 7. 古代ギリシャの政治は、これまで学習した古代エジプトや古代中国の政治と何が違うのだろうか。 8. 民主政が完成する前の古代ギリシャ・アテネではどのような政治が行われたのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギリシャ。 ・ たくさんの人の前で何かを発表する場。話し合いをする場。 ・ 市民による民会を中心に物事が決定する民主政というしくみが採られていた。 ・ 社会を構成する多くの人々が政治の決定に関わる考え方やしくみのこと。 ・ 「民主主義」の語源となったのがギリシャ語の“demokratia”である。 ・ 戦後の日本が整えてきた政治のしくみ。選挙で政治家を選ぶこと。クラスで話し合って考えを出し合うこと。多数決。 など ・ 社会を構成する多くの人々が政治の決定に関わるしくみが現代につながるどころである。しかし、アテネは奴隷制に支えられており、参政権をもつのはすべての成人男性市民で、女性や異民族、奴隷は政治に参加することができなかった。また、選挙による代議制ではなく、市民が直接政治に参加した。 ・ 王や皇帝のような存在はいないので、一人や少数によって政治が決定するのではなく、国政のあらゆることは市民が参加する民会での多数決によって決定した。 ・ 少数の貴族が政治を支配する体制だった。 ・ ペルシア戦争で兵士として平民の活躍が認められ、平民にも政治に参加する権利が得られるようになった。
【第2時】 な 政 治 が 行 わ れ た の だ ら う か。 古 代 ロ ー マ で は ど の よ う	<ol style="list-style-type: none"> 9. 「多数の支配」から政治のしくみが変化した地域はあるだろうか。 10. 古代ローマではどのような政治が行われたのだろうか。 11. ギリシャの民主政とローマの共和政に共通点や相違点はあるだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古代ローマでは、共和政から帝政に移り変わり、ローマ帝国として発展した。 ・ 古代ローマでは貴族が政治を支配する体制から、法律上、貴族と平民の政治の権利が平等となり、共和政が生まれた。さらに、他国との戦争が続く中で、強い軍事力と指導力をもち、市民からの支持を得た皇帝が政治を支配する帝政に移り変わった。 ・ ギリシャの民主政もローマの共和政も、政治を多くの市民で共有するしくみであるという点では同じである。民主政では多くの市民の中でも多数を占める貧しい人々が政治に参加する点、共和政は貴族と平民もとの権利などは保持したままで公共のために政治を行うという点が強調される。
【第3時】 し く み に と つ て 、 最 も 理 想 的 な 政 治 の は ど れ だ ら う か。	<ol style="list-style-type: none"> 12. 古代ギリシャやローマ市民にとって、最も理想的な政治のしくみといえるのはどれだろうか。(本時) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「一人の支配」は、より決定に時間がかからずスムーズに物事を実行することができる。一方で、主権をもつ一人に政治についての知識や判断力がなければ、愚かな政策が実行されてしまう。 ・ 「少数の支配」は、多数よりも決定に時間がかからずスムーズに物事を実行することができる。一方で、主権をもつ少数の人に政治についての知識や判断力がなければ、愚かな政策が実行されてしまう。 ・ 「多数の支配」は、政治により多くの人の意見が反映できる。一方で、多くの人に参政権があつたとしても、人々に政治についての知識や判断力がなければ、愚かな政策が実行されてしまう。

	<p>13. 政治はだれのためにあるのだろうか。</p> <p>14. アリストテレスが問題点を指摘した民主政と現代の民主政治のしくみは同じではないものの、多くの人が政治に参加するしくみや考え方（「民主主義」）は近いものがある。 <u>「民主主義」の考え方が取り入れられている現代において、よりよい社会を実現するために、社会を構成する市民として、私たちが気を付けなければならないことや大切にしなければならないことは何だろうか。</u> <u>「ギリシャ・アテネの民主政」全体を通した課題</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貧しい人のため。裕福な人のため。あらゆる層の人のため。社会の多くの人のため。など ・ 多くの人の意見だからといって自分で判断しないで従うのではなく、自分で情報を集めたり様々な視点から考えたりして物事の善し悪しを判断すること。 ・ 物事を決定するときに、決定の方法（制度やしくみ）が民主的であるだけでなく、決定に関わる一人一人に社会を構成する一人としての自覚があり、よりよい選択をする判断力や選んだことへの責任感があること。 など <p>※詳細は本時の展開に</p>
<p>単【 元第 めの4 時】</p>	<p>15. <u>「民主主義」の考え方が取り入れられている現代において、よりよい社会を実現するために、社会を構成する市民として、私たちが気を付けなければならないことや大切にしなければならないことは何だろうか。</u></p>	

6 本時の学習（全3／4時間）

（1）指導目標

- ・ 古代民主政の性格を考察することを通して、主権者の育成という観点から、「民主主義」の優れている点や課題を踏まえ、よりよい社会を実現するために、社会を構成する市民として、気を付けなければならないことや大切にしなければならないことは何かを説明することができる。

（2）展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">古代ギリシャやローマ市民にとって、最も理想的な政治のしくみといえるのはどれだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古代ギリシャ・アテネでは、民主政という現代の「民主主義」につながる政治のしくみが完成したことや、古代の世界には他にも地域によってさまざまな政治のしくみがととのえられたことを振り返らせる。
<p>3 小グループで意見交換する。</p> <p>4 全体で意見交換する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">一人の支配</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの人の意見をまとめるより決定に時間がかからず、スムーズに政策を実行することができる。 ・ ローマの帝政のように、人々からの支持や実力がともなっていれば政治が安定する。ローマで水道や道路の建設が盛んに行われたのも、ローマ市民のために皇帝が政治を行ったからだ。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">少数の支配</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アテネの民主政のしくみや他の地域の政治のしくみなど、これまで学習したことや資料を振り返り、根拠を明確にして主張するよう助言する。 ・ 後で反論タイムを設けるので、発表者の意見に共感できる点や反論できる点はないか考えながら聴くよう助言する。 ・ 一人の支配、少数の支配、多数の支配の順に理由を発表させる。

- ・多数よりも決定に時間がかからずスムーズに物事を実行することができる。
- ・一部の実力のある人が協力して政治を行うことで、独裁者が生まれることを防ぐことができる。ローマでも少数の有力者が政治を行うことでそれまでの混乱を収めることができた。

多数の支配

- ・民会では、多数決による決定を重視しているので、身分に関係なく多くの人たちが政治に携わることができる。
- ・自分たちのために政治を行うので、裕福な人も貧しい人も含めたあらゆる層の人たちの意見を政治に反映させることができる。

5 反論がないか、全体で意見交換する。

一人の支配

- ・ローマの帝政のように、人々からの信頼や実力がともなっていればいいが、政治についての知識や判断力がなければ、愚かな政策が実行されてしまう。
- ・ローマの水道や道路の建設は軍事目的でもあった。戦争するかどうかなど、一人が決定権を持ち続けることには危険も伴う。

少数の支配

- ・政治の決定権をもつ一部の人に対立すると派閥が生まれてしまう。ローマでも始めは上手くいっていた少数の有力者による政治も争いが起き、続かなかった。

多数の支配

- ・市民の中には政治の専門家もいれば、知識のない人もおり、誤った判断をしてしまう可能性がある。民会などで多数決の結果を重視したとしても、多数決で決めたことが必ずしも正しいとは限らない。
- ・ソクラテスの裁判をみても、多数決で決定したことは方法としては民主的だったかもしれないが、少数の意見を無視してしまっている。
- ・多くの人が政治に携わる権利があったとしても、ギリシャのように自分の利益のために上手いこという人が現れて、多数

- ・反論を考えさせることで、それぞれの政治のしくみの課題に目を向けさせるとともに、最も理想的な政治として選ぶ生徒が多いと考えられるアテネの民主政(多数の支配)にも負の側面があることに気付かせ、批判的に考察させる。

<p>の意見が悪い方向に流されてしまうこともある。</p> <p>6 「民主主義」（多くの人が政治などの決定にかかわるしくみや考え方が取り入れられている現代において、よりよい社会を実現するために、社会を構成する市民として、私たちが気を付けなければならないことや大切にしなければならないことは何か、学習を通して考えたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人の意見だからといって自分で判断しないで従うのではなく、自分で情報を集めたり様々な視点から考えたりして物事の善し悪しを判断すること。 ・物事を決定するときに、決定の方法（制度やしくみ）が民主的であるだけでなく、決定に関わる一人一人に社会を構成する一人としての自覚があり、よりよい選択をする判断力や選んだことへの責任感があること。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの政治のしくみのよい点や課題を考察してきたが、今日の政治にもつながる、多くの人が決定にかかわるしくみにも課題があることに気付かせる。 ・現代の「民主主義」や生活とのつながりを感じられるよう、日本の政治のしくみを想起させる。 ・古代民主政の性格を考察することを通して、主権者の育成という観点から、「民主主義」の優れている点や課題を踏まえ、よりよい社会を実現するために、社会を構成する市民として、気を付けなければならないことや大切にしなければならないことは何かを説明できるようにする。 <p>【思考・判断・表現】（発言・ワークシート記述）</p>
--	--

7 授業観察の視点

[学習者]：生徒の思考はどのように変容し、深まったか。

[授業者]：古代民主政の性格を考察することを通して、主権者の育成という観点から「民主主義」を考えさせるための授業構成として、学習課題、発問、資料提示、意見の取り上げ方などの手立ては適切であったか。また、どのようにすればよかったのか。

〔主な参考文献〕

【方法論】

- ・ 岡崎誠司『社会科の授業改善1 見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房、2013年
- ・ 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書出版、1978年
- ・ 森分孝治・片上宗二編『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書出版、2000年

【内容論】

- ・ アリストテレス『政治学』（牛田徳子 訳）京都大学学術出版会、2001年
- ・ アリストテレス『ニコマコス倫理学』（朴一功 訳）京都大学学術出版会、2002年
- ・ 宇野重規『民主主義とは何か』講談社、2020年
- ・ 周藤芳幸『図説 ギリシャ エーゲ海文明の歴史を訪ねて』河出書房新社、1997年
- ・ 橋場 弦『賄賂とアテナイ民主政』山川出版社、2008年
- ・ 米澤 茂『ソクラテスとアテネ帝国主義—ソクラテスの活動の再検討—』『政治思想研究』4巻、2004年 p. 79-97
- ・ 令和4年5月西洋史学 徳橋教授より聞き取り